

徳丸高堰IV遺跡

北関東自動車道側道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



1. 德丸高塚IV遺跡出土遺物(土器)



2. 徳丸高塚IV遺跡出土遺物(陶器)

序 文

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、その赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる水と緑にあふれた地であります。

前橋は古代より豊かな文化あふれる地であり、東日本でもきわだった内容を示しています。今から2万8千年前の旧石器を始めとして、10基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するものなど多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代からの人々の生活の跡が市内のほぼ全域に残されています。古代の人々が暮らした家の跡、使った石器や土器などの道具、水田跡なども多く、毎年の埋蔵文化財発掘調査により多くの新しい発見があります。

本年度北関東自動車道側道建設に関連して調査を行った徳丸町周辺は、前橋市南部の水田地帯にありますが、近年の調査で周辺から縄文時代から中世に至る人々の生活の跡が多く発見されています。

本年度の徳丸高堰Ⅳ遺跡の調査では、中・近世の堀跡などの遺構を検出し、地区の歴史解明に貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたりまして、ご協力をいただきました市北関東自動車道対策室、県文化財保護課、県埋蔵文化財調査事業団、地元関係者、酷暑のなか調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成13年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 阿部 明雄

例 言

1. 本報告書は、北関東自動車道側道道路改良事業に伴う徳丸高塚Ⅳ遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は以下のとおりである。

調査場所 前橋市房丸町155-2他
発掘・整理担当者 小峰 篤・吉沢 貴(前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査係)
発掘調査期間 平成12年5月16日～平成12年9月22日
整理・報告書作成期間 平成13年1月9日～平成13年3月23日

4. 本書の原稿執筆・纏集は、小峰が行った。整理作業をはじめ図版作成には、阿部シゲ子・神澤とし江・桐谷秀子・櫻井妙子の協力があった。
5. 発掘調査に関わった方々は次のとおりである。(順不同)
阿部シゲ子 神澤とし江 桐谷秀子 櫻井妙子 桜井弘 高橋孜 奈良岩雄 原田要三 古沢実
6. 発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課収蔵庫で管理されている。

凡 例

1. 掘図中に使用した北は座標北である。
2. 掘図に、建設省国土地理院発行の1/2.5万地形図(前橋・高崎・伊勢崎・大胡)、1/5万地形図(前橋・高崎)を使用した。
3. 本遺跡の遺跡コードは、12G44である。
4. 各遺構の略称は次のとおりである。
D…土坑 I…井戸 W…溝
5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は次のとおりである。
遺構 土坑・井戸…1/60 溝…1/60、1/120 全体図…1/200
遺物 土器・陶磁器…1/3、1/4 石製品…1/2、1/4 錢貨…1/2
6. スクリーントーンの使用は次のとおりである。
遺構断面図 構築面…
遺物実測図 施釉範囲…
7. 表中の数値の中で、()は現存値を、[]は復元値を表す。

目次

序	i
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	2
2 歴史的環境	3
3 層序	4
III 発掘調査の方針と経過	
1 調査方針	5
2 調査経過	5
IV 造構と遺物	
(1) 土坑	8
(2) 井戸	8
(3) 溝	8
V まとめ	11

図版

- 口絵 1 德丸高塙IV遺跡出土遺物（土器）
2 德丸高塙IV遺跡出土遺物（陶磁器）
P.L. 1 德丸高塙IV遺跡A区全景、W-1~4・6号溝
2 W-5号溝、D-1・2号土坑、德丸高塙IV遺跡B区全景
3 D-3・4号土坑、I-1号井戸、W-7~14・16~22号溝
4 W-5号溝出土遺物
5 W-5・6号溝出土遺物
6 W-5・6・18・21号溝、D-2号土坑、A区・B区表探出土遺物

挿図

- Fig. 1 德丸高塙IV遺跡位置図
Fig. 2 位置図と周辺遺跡図
Fig. 3 標準土層図
Fig. 4 德丸高塙IV遺跡調査区設定図
Fig. 5 德丸高塙IV遺跡全体図
Fig. 6 W-1~3・5・6号溝
Fig. 7 W-8~10・12・15・21号溝
Fig. 8 W-4号溝、I-1号井戸、D-1~4号土坑
Fig. 9 W-5号溝出土遺物
Fig. 10 W-5・6号溝出土遺物
Fig. 11 W-5・18号溝、D-2号土坑、A区・B区表探出土遺物
Fig. 12 W-5・7・12・17・21号溝、B区表探出土遺物

表

- Tab. 1 德丸高塙IV遺跡土器・陶磁器観察表
Tab. 2 石製品観察表
Tab. 3 銭貨観察表

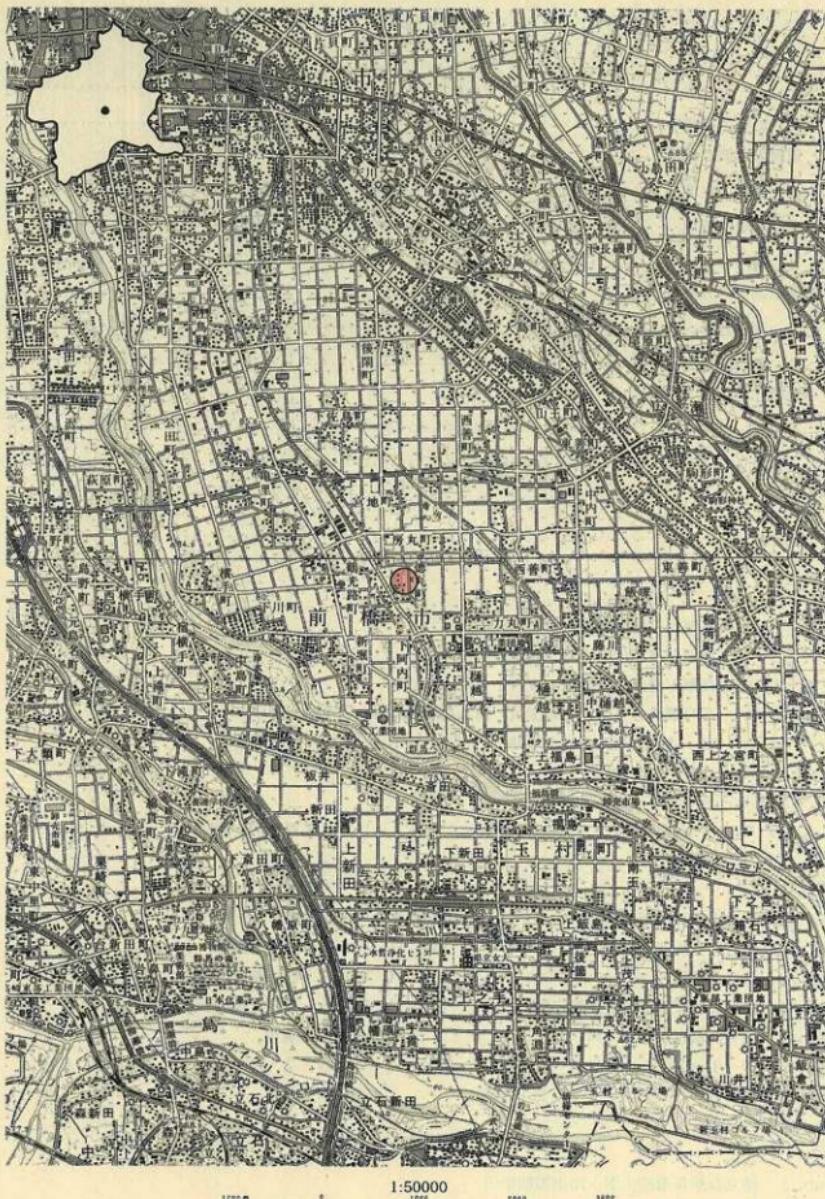


Fig. 1 德丸高塚IV遺跡位置図

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、北関東自動車道側道改良事業に伴うものである。平成12年4月7日、前橋市長より北関東自動車道対策室を通じて当該事業にかかる埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受けて、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団が発掘調査を受諾することとした。以後の事務手続き等については、調査団と調査依頼者との間で直接協議され、4月27日に前橋市長と、前橋市埋蔵文化財発掘調査団との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。5月16日より現地での調査を開始するに至った。

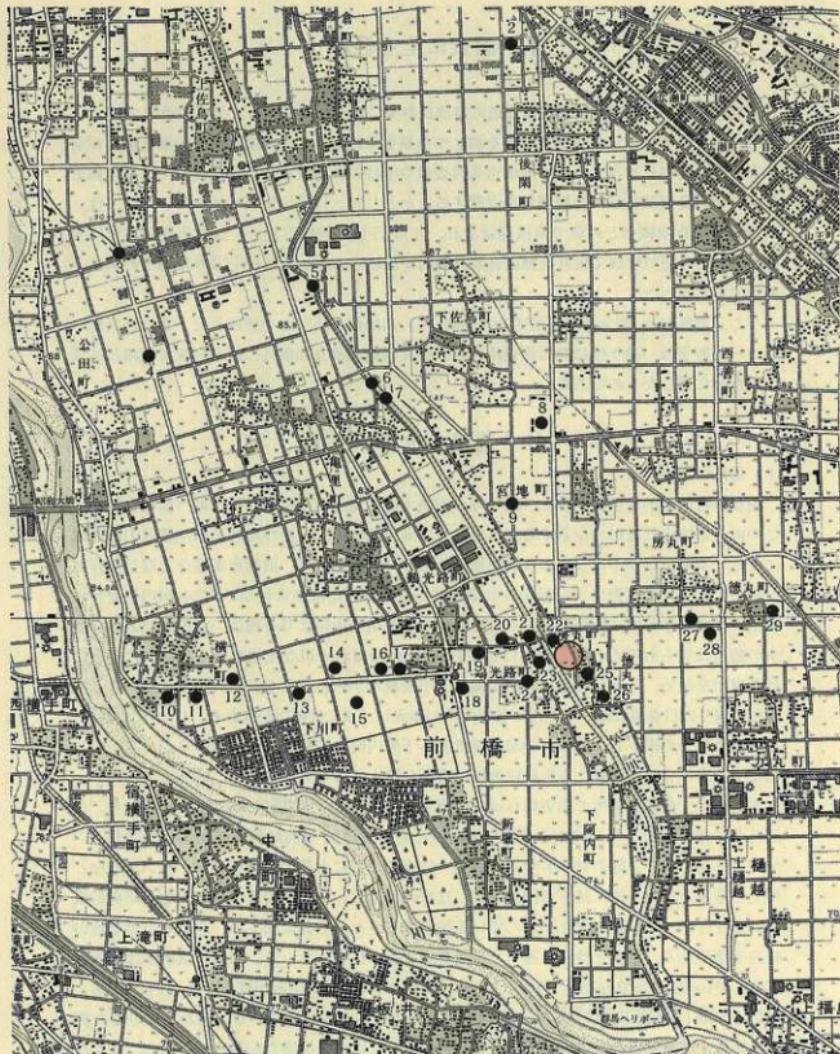
なお、遺跡名称「徳丸高塚IV遺跡」の「高塚」は、旧地籍の小字名を採用した。また、名称中のローマ数字は、過年度に発掘調査済みの、徳丸高塚、徳丸高塚Ⅱ、徳丸高塚Ⅲ遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の立地

前橋市は地形的に区分すると、北東部の赤城火山斜面、南西部の洪積台地（前橋台地）、この両者に挟まれる形で位置する沖積低地（広瀬川低地帯）、及び現利根川氾濫原の四地域になる。本遺跡は、そのうちの前橋台地上にある。前橋台地は、前橋市街地を北端に南方向一帯に広がる沖積平野で、前橋泥流堆積物層が形成された洪積世後期の約24,000年前から利根川に浸食されずに冲積化が進んだ地域で、広瀬川低地帯より一段高い洪積層である。多少の起伏は見られるものの、標高にして75~80mの概ね平坦な土地である。この台地上には利根川を始め、幾つかの中小河川が流れ、小規模ながら氾濫原を各所に形成している。本遺跡の周囲に目を遣れば、すぐ西には端気川が南流し、東には藤川が流れる。特に端気川は、広瀬川と分かれ南下し、前橋市の最南端である下阿内町先で利根川に合流する。分水から合流までおよそ9kmに渡り、南部農耕地域の重要な用水である。

本遺跡は、前橋市役所の南東約6kmに位置する。調査区は房丸町と徳丸町にまたがる。本遺跡北には、前橋市と高崎市を結ぶ主要道路である県道27号高崎駒形線が走っており、ファミリーレストラン等のロードサイド店や、最近では特に大型のショッピングセンターなどが立ち並ぶ。また、西には下川田地、東には東善田地といった大規模な住宅団地が開発造成されるなど、ここ数年市街化が進んでいる地域であった。それに加えて、北関東自動車道の建設工事が進み、以前とは全く違った風景を呈すようになっている。前橋市南西部は一面水田の広がる田園地帯であるが、その中を大きく土盛りをした高速道路が貫く様は、圧巻である。現在も平成12年度末の供用開始に向けて急ピッチの作業が続いている。また、こうした開発に絡み、道路整備などの周辺開発も多く、埋蔵文化財の発掘調査が数多く行われ、様々な遺構が検出され前橋南部地域の歴史究明の一役を担っている。



- 1 德丸高堀IV遺跡
2 後閏II遺跡
3 公田東遺跡
4 公田池尻遺跡
5 下佐烏遺跡
6 宿阿内城内遺跡
7 川曲遺跡
8 東田遺跡
9 宮地仲田遺跡
10 浅間神社古墳
11 井戸南遺跡
12 横手宮田遺跡
13 横手湯田遺跡
14 横手湯田II遺跡
15 横手湯田III遺跡
16 鶴光路線引遺跡
17 横手湯田IV遺跡
18 村中遺跡
19 西田III遺跡
20 西田II遺跡
21 鶴光路復橋II遺跡
22 德丸高堀III遺跡
23 西田IV遺跡
24 西田遺跡
25 德丸高堀II遺跡
26 德丸高堀遺跡
27 德丸仲田III遺跡
28 德丸仲田遺跡
29 德丸仲田II遺跡

Fig.2 位置図と周辺遺跡図

2. 歴史的環境

本遺跡が所在する前橋南部地域では、先に述べたように北関東自動車道をはじめ多くの開発事業が実施され、それに伴って埋蔵文化財発掘調査も多数行われている。こうした調査の結果、古くは縄文時代から近世のものまで様々な遺構等が検出されている。ここでは、それを基に歴史の一端を概観してみる。

縄文時代に関しては、草創期の微隆起線文土器及び石器が出土した徳丸仲田遺跡、縄文前期～中期と思われる石器製作址を検出した西善尺司遺跡、縄文晩期の遺物が発見された横手湯田遺跡がある程度で、生活の痕跡が希薄な地域である。このような状況は、弥生時代に入ってもあり変わらず、樽式土器片が出土した下増田常木遺跡が発見されただけで、当時の様子をうかがい知ることは出来ない。こうした遺跡のあり方をみると古墳時代までの前橋台地は、人々の居住や生産に関して閲覧されていた地域であることがわかる。それは、この台地の成因に起因するものとみられ、低湿地や周辺綈高地の灌排水による安定的な環境が得られ、開発の手が入ったのは古墳時代に入ってからであった。

古墳時代となると、台地北部で、現在の広瀬川右岸、通称広瀬川低地帯と呼ばれる低地の縁には、八幡山古墳、前橋天神山古墳に代表される、市内はもとより群馬県内でも有数の古墳群が出現する。北関東自動車道建設関連での調査で検出された集落址を挙げると、本遺跡の東に位置する前田遺跡では、和泉式土器を伴う竪穴住居址をはじめ、掘立柱建物跡、井戸跡などが確認されている。高速道路関連以外の発掘調査では、古墳時代前期(石田川期)の、後閑団地遺跡や古墳時代後期(鬼高窓)の後閑II遺跡、川曲遺跡などが報告されている。これら多くの調査結果から、集落址は広瀬川低地帯が作り上げた自然堤防線辺部と、台地北端部に集中している傾向がある。また、古墳時代の水田跡を挙げておくと、古墳時代前期の大がかりな灌漑用水路の存在が認められた徳丸仲田遺跡がある。

次に平安時代の遺構について少し述べてみたい。この時代の遺構はもっぱら平安末期の天仁元年(1108年)に噴出したとされるAs-B軽石(浅間B軽石)により埋没した水田跡である。本遺跡の北に位置する宮地中田遺跡は約109m間隔の坪境畦畔によって方格に区画された、条里制水田跡であることが明らかになっており、律令制による土地制度が広範囲に及んでいたと考えられる。また、この時代の住居址も多數検出されている。中内村前遺跡では162軒にも及ぶ竪穴住居址が確認され、多くの出土遺物が検出された中に墨書き器や小型の須恵器「水差し」等も見つかっている。

さらに時代が降り中・近世の遺構となると、この地域では環濠遺跡群が多く検出されている。こういった濠は、単に自己保護のためばかりでなく、排水や土地の境界を画する意図をもつて掘られた前橋台地の環境を整備するのに不可欠な手法であった。

3. 層序

徳丸高塚IV遺跡は、前橋市南部の前橋台地上に位置する。前橋台地は上部から順に表土（黒土）、褐色火山灰質シルト層（水成上部ローム層）、火山泥流堆積物（前橋泥流堆積物）などから形成される。

今回調査した場所は、A区については果樹園、B区については畑作地として利用されていた。基本土層はB区の西壁中央で確認した。ただ、深堀を入れると湧水が多く、ここでは地表面から約60cm程度までしか確認できなかつたため、平成11年度にこのA区とB区とに挟まれた区画を調査した際の土層も参考にした。

昨年と同様に調査区内では、As-B軽石（浅間Bテフラ：1108年）の純層は確認できなかつた。

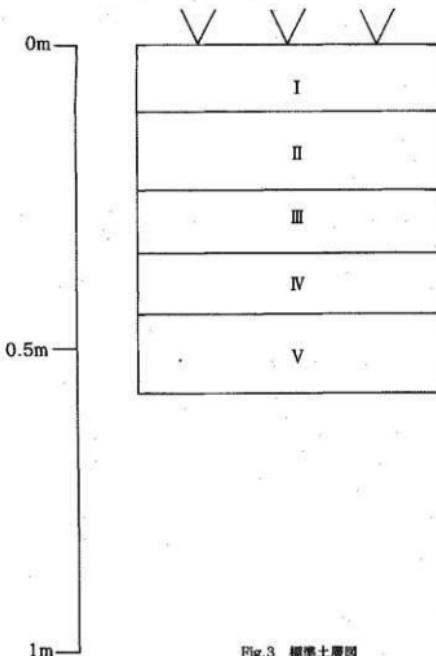


Fig.3 標準土層図

I層	灰黄褐色土層	緻まりやや有り、粘性なし。耕作土
II層	にぶい黄褐色土層	緻まり有り、粘性なし。土地改良に伴う客土 $\phi 10\sim20mm$ 磚多く含む
III層	黒褐色土層	緻まり有り、粘性なし。As-B軽石5%
IV層	暗褐色土層	緻まり有り、粘性やや有り。灰白色粘質土ブロック3~5%
V層	灰白色粘質土層	緻まり、粘性ともに有り。地山

III 発掘調査の方針と経過

1. 調査方針

調査委託された徳丸高堰IV遺跡は、現在建設中の北関東自動車道前橋南インターチェンジ（仮称）を回り込む北側側道部分である。調査箇所は2ヵ所に分かれ、本線に近い方をA区とし、その北に位置する区画をB区とした。調査面積はA・B区併せて295m²である。

グリッドについては、5m間隔で打ち、その呼称は北西杭の名称を使用した。調査段階での方法は以下のとおりである。

- 1) 徳丸高堰IV遺跡内の方眼杭は、西から東へX0、X1、X2…、北から南へY0、Y1、Y2…、と付番し、測量の基準点X47、Y23グリッドの公共座標は、
第IX系 +37035.000m (X) -65215.000m (Y)
緯度 36° 19' 53" . 8444. 経度 139° 06' 24" . 5913
子午線収差角 25° 49" . 6 増大率 0.999952である。

- 2) 調査の手順は、表土掘削・遺構確認・杭打ち測量・遺構精査・図面作成・写真撮影である。図面作成にあたっては、平板・簡易造り方測量を用い、遺構は1/40、セクション1/20で作成した。包含層の遺物は、グリッド単位で収納した。

2. 調査経過

本調査は、平成12年5月16日に着手し平成12年9月22日に終了した。

5月16日より重機（パックフォー0.4m³）及び6tクローラーを投入し、A区南から表土掘削を開始した。地表面から約60cm掘り下げたところで、プラン確認のため鏝簾をかけた結果、溝6条及び土坑2基が検出された。調査開始当初は天候にも恵まれ、遺構精査、遺構測量、写真撮影と順調に進み、ハイライダー（高所作業車）からのA区全景写真を撮影し終了となった。

引き続きB区の調査を開始した。こちらも地表面から約40~50cm程度掘り下げたところでプラン確認を行った。B区からは大小の溝18条、土坑2基と井戸1基が検出された。B区調査時は、日中は天気になるが夕立が多く翌日調査区が冠水していることが多々あった。その度に水中ポンプによる水抜きを行いながらの作業となった。時には1日が水抜きで終わるなど作業の進捗に多少支障をきたす場面もあったが、概ね予定どおりに行うことができた。遺構精査、平板測量、写真撮影を終え現場での調査は全て終了した。

その後、現場事務所内で出土した遺物の洗浄を行い、本格的な整理作業は、前橋市三保町所在の文化財保護課整理作業室にて実施した。

徳丸高塙IV遺跡調査区設定図

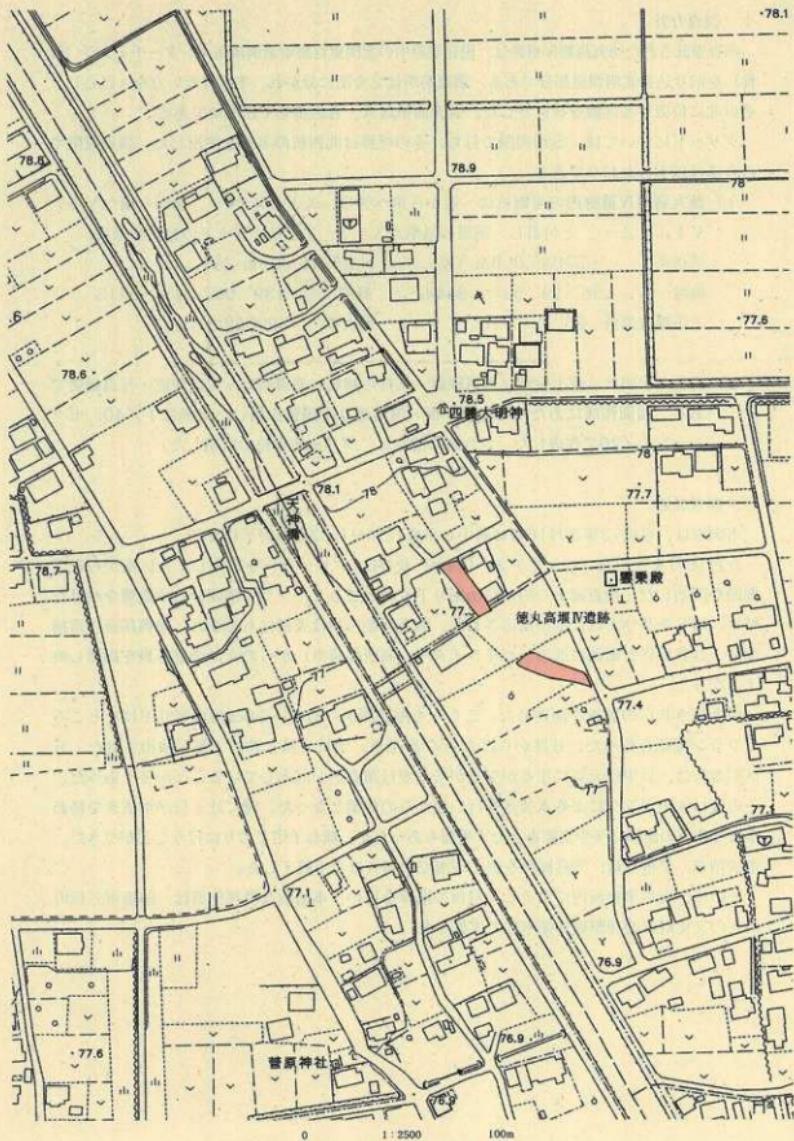


Fig. 4 徳丸高塙IV遺跡調査区設定図

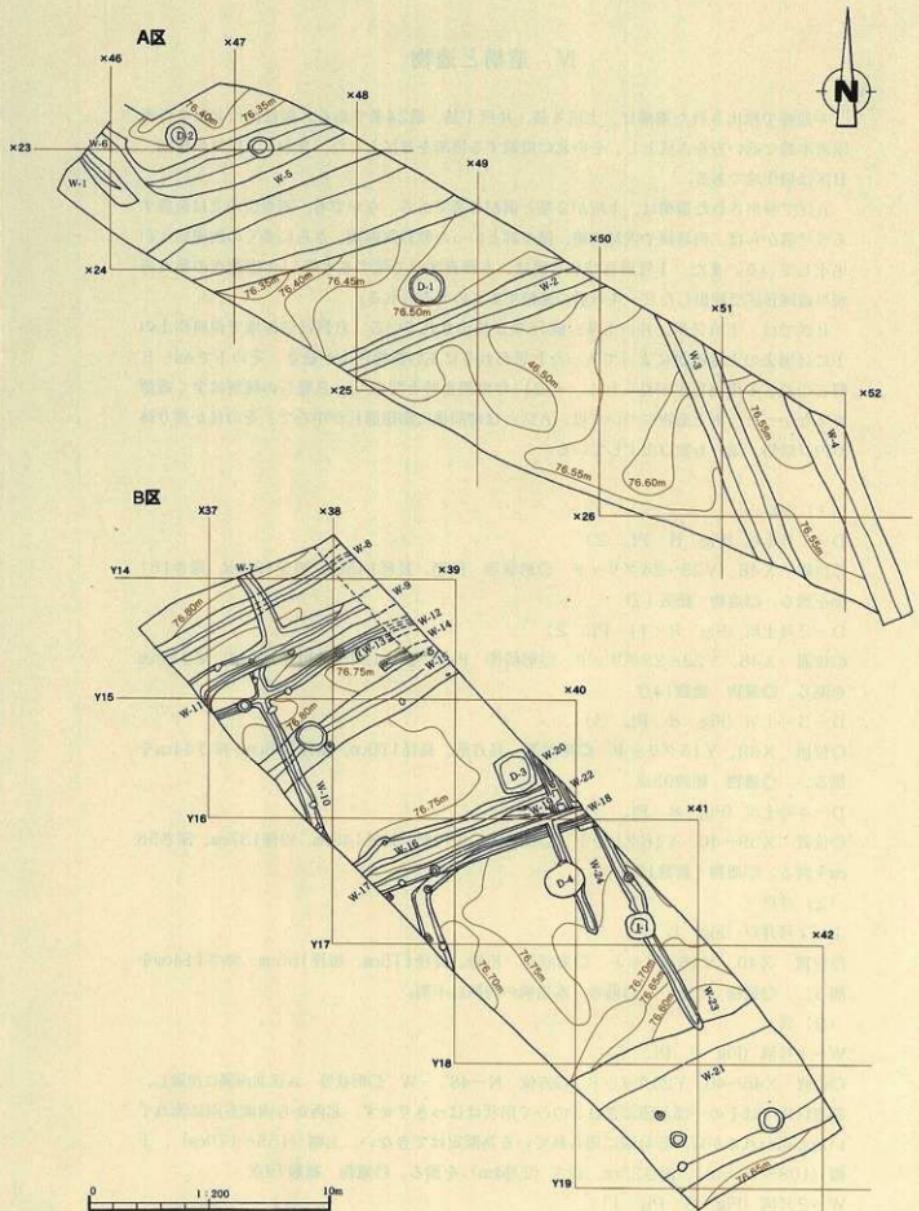


Fig.5 德丸高塚N遺跡全体図

IV 遺構と遺物

本遺跡で検出された遺構は、土坑4基、井戸1基、溝24条である。調査区は北関東自動車道本線に近い方をA区とし、その北に位置する箇所をB区とした。なお、A区は果樹園、B区は畑作地である。

A区で検出された遺構は、土坑が2基と溝が6条である。なかでも、調査区の北に位置する5号溝からは、内耳鍋や内耳培培、壠り鉢といった軟質陶器類、さらに多くの陶磁器片が出土している。また、1号溝及び6号溝は、本調査区北で接する平成11年度調査の徳丸高塙Ⅲ遺跡B区で検出した2・4号溝の連続するものとみられる。

B区では、土坑2基、井戸1基、溝18条が検出されている。B区は畑作地で現耕作土の下には過去の土地改良によって入ったと思われるにぶい黄褐色土が続き、その下でAs-B軽石の混ざる黒褐色土が見られる。平成11年度調査時と同様As-B軽石の純層は全く確認できなかった。出土遺物については、A区とほぼ同様に陶磁器片を中心で、そのほか壠り鉢や内耳培培、砥石も数点出土している。

(1) 土坑

D-1号土坑 (Fig. 8 PL. 2)

◎位置 X48、Y23~24グリッド ◎形状等 円形。長径145cm、短径135cm、深さ161cmを測る。◎遺物 総数1点

D-2号土坑 (Fig. 8・11 PL. 2)

◎位置 X46、Y22~23グリッド ◎形状等 円形。長径124cm、短径123cm、深さ92cmを測る。◎遺物 総数14点

D-3号土坑 (Fig. 8 PL. 3)

◎位置 X39、Y15グリッド ◎形状等 長方形。長径170cm、短径148cm、深さ44cmを測る。◎遺物 総数93点

D-4号土坑 (Fig. 8 PL. 3)

◎位置 X39~40、Y16グリッド ◎形状等 楊円形。長径148cm、短径137cm、深さ58cmを測る。◎遺物 総数12点

(2) 井戸

I-1号井戸 (Fig. 8 PL. 3)

◎位置 X40、Y16グリッド ◎形状等 円形。長径115cm、短径105cm、深さ114cmを測る。◎遺物 なし。◎備考 本遺構の時期は不明。

(3) 溝

W-1号溝 (Fig. 6 PL. 1)

◎位置 X45~46、Y23グリッド ◎方位 N-48° -W ◎形状等 A区北西隅に位置し、調査区内ではその一部が確認されるのみで形状ははつきりせず、北西から南東方向に流れていたと思われるがW-5号溝に切られている為断定はできない。上幅(155~170cm)、下幅(108~160cm)、深さ23cm、長さ(2.94m)を測る。◎遺物 総数79点

W-2号溝 (Fig. 6 PL. 1)

◎位置 X47~50、Y23~24グリッド ◎方位 N-68° - E ◎形状等 A区の中央を北東から南西に真っ直ぐ走る。上幅105~198cm、下幅28~74cm、深さ35~52.5cm、長さ10.50mを測る。 ◎遺物 総数1点 ◎備考 本遺構は、調査区外にて南東に直角に折れ曲がり調査区内でW-3号溝となる。

W-3号溝 (Fig. 6 PL. 1)

◎位置 X50~51、Y24~26グリッド ◎方位 N-22° - W ◎形状等 A区東側に位置し、北西から南東に真っ直ぐ走る。上幅142~168cm、下幅50~85cm、深さ30~47cm、長さ10.40mを測る。 ◎遺物 総数16点 ◎備考 調査区外にて直角に折れ曲がりW-2号溝となる。

W-4号溝 (Fig. 8 PL. 1)

◎位置 X51~52、Y24~26グリッド ◎方位 N-20° - W ◎形状等 A区の東壁に添う形で北西から南東に真っ直ぐ走る。なお、溝の東半分が調査区外のため溝の正確な幅は不明。上幅 [128~170cm]、下幅 [50~92cm]、深さ59.5~70cm、長さ8.90mを測る。

◎遺物 総数35点

W-5号溝 (Fig. 6・9・10~12 PL. 2)

◎位置 X46~48、Y22~24グリッド ◎方位 N-70° - E ◎形状等 A区では最も大きく調査区北西に位置する。上幅5.80~7.10m、下幅90~135cm、深さ62~87.5cm、長さ10.50mを測る。 ◎遺物 総数875点

W-6号溝 (Fig. 6・10 PL. 1)

◎位置 X45~46、Y22~23グリッド ◎方位 N-45° - W ◎形状等 A区北西隅でW-1号溝と平行する。W-1号溝同様にW-5号溝に切られる。上幅120~158cm、下幅60~85cm、深さ11.5~14cm、長さ3.30mを測る。 ◎遺物 総数25点

W-7号溝 (Fig. 7・12 PL. 3)

◎位置 X37、Y13~14グリッド ◎方位 N-35° - W ◎形状等 上幅60~100cm、下幅28~64cm、深さ5~10cm、長さ2.80mを測る。 ◎遺物 総数10点

W-8号溝 (Fig. 7 PL. 3)

◎位置 X36~38、Y13~14グリッド ◎方位 N-65° - E ◎形状等 上幅62~95cm、下幅13~22cm、深さ29~43cm、長さ8.80mを測る。 ◎遺物 総数13点

W-9号溝 (Fig. 7 PL. 3)

◎位置 X37~38、Y14~15グリッド ◎方位 N-65° - E ◎形状等 上幅100~120cm、下幅10~20cm、深さ17~25cm、長さ4.75mを測る。 ◎遺物 総数21点

W-10号溝 (Fig. 7 PL. 3)

◎位置 X37、Y14~16グリッド ◎方位 N-25° - W ◎形状等 上幅42~57cm、下幅20~45cm、深さ6~9cm、長さ7.50mを測る。 ◎遺物 総数3点

W-11号溝 (Fig. 7 PL. 3)

◎位置 X36~37、Y14~15グリッド ◎方位 N-63° - E ◎形状等 上幅30~57cm、下幅8~14cm、深さ11~15cm、長さ3.40mを測る。

W-12号溝 (Fig. 7・12 PL. 3)

◎位置 X37~38、Y14~15グリッド ◎方位 N-55° - E ◎形状等 上幅32~48cm、

- 下幅13~22cm、深さ2~22cm、長さ8.94mを測る。 ◎遺物 総数11点
W-13号溝 (Fig. 7 PL. 3)
◎位置 X38、Y15グリッド ◎方位 N-63° - E ◎形状等 上幅35~40cm、下幅15~23cm、深さ8~9cm、長さ2.72mを測る。 ◎遺物 総数4点
W-14号溝 (Fig. 7 PL. 3)
◎位置 X38、Y15グリッド ◎方位 N-65° - E ◎形状等 上幅32~42cm、下幅15~18cm、
深さ5cm、長さ2.28mを測る。 ◎遺物 総数1点
W-15号溝 (Fig. 7)
◎位置 X37~39、Y14~15グリッド ◎方位 N-60° - E ◎形状等 上幅130~162cm、下幅28~35cm、深さ52~55cm、長さ8.67mを測る。 ◎遺物 総数96点
W-16号溝 (PL. 3)
◎位置 X38~39、Y15~16グリッド ◎方位 N-65° - E ◎形状等 上幅48~90cm、
下幅20~68cm、深さ6~19cm、長さ8.30mを測る。 ◎遺物 総数6点
W-17号溝 (Fig. 12 PL. 3)
◎位置 X38~40、Y15~16グリッド ◎方位 N-65° - E ◎形状等 上幅38~65cm、
下幅8~33cm、深さ6~20.5cm、長さ9.05mを測る。 ◎遺物 総数2点
W-18号溝 (Fig. 11 PL. 3)
◎位置 X38~40、Y15~17グリッド ◎方位 N-73° - E ◎形状等 上幅32~
180cm、下幅8~42cm、深さ6~12cm、長さ10.70mを測る。
W-19号溝 (PL. 3)
◎位置 X38~39、Y15~16グリッド ◎方位 N-85° - E ◎形状等 上幅30~38cm、
下幅18~24cm、深さ5~10cm、長さ2.50mを測る。
W-20号溝 (PL. 3)
◎位置 X39、Y15グリッド ◎方位 N-23° - W ◎形状等 上幅22~30cm、下幅
5~12cm、深さ9~16cm、長さ4.60mを測る。 ◎遺物 総数2点
W-21号溝 (Fig. 7・12 PL. 3)
◎位置 X39~42、Y17~19グリッド ◎方位 N-60° - E ◎形状等 上幅560~
630cm、下幅352~385cm、深さ84~87cm、長さ7.75mを測る。 ◎遺物 総数358点
W-22号溝 (PL. 3)
◎位置 X39、Y15グリッド ◎方位 N-28° - W ◎形状等 上幅30~32cm、下幅
12~14cm、深さ13~18cm、長さ1.50mを測る。
W-23号溝
◎位置 X40~41、Y16~17グリッド ◎方位 N-30° - W ◎形状等 上幅38~68cm、
下幅12~32cm、深さ12~31.5cm、長さ9.40mを測る。 ◎遺物 総数3点
W-24号溝
◎位置 X39~40、Y16グリッド ◎方位 N-23° - W ◎形状等 上幅38~48cm、
下幅12~20cm、深さ5.5~19cm、長さ4.90mを測る。

V. まとめ

今回調査した徳丸高堀IV遺跡、A区は果樹園、B区は畑作地として利用されてきており、遺構の残存状況は良いかと思われたが、土地改良などが行われた際に少なからず破壊されてしまったものと思われる。以下調査区ごとにまとめてみたい。

・ A区

A区では土坑2基と溝6条が検出された。

1号及び6号溝は平成11年度調査で検出した溝の連続と思われる。走行方向はN-45°-Eで南西に向かって真っ直ぐに延びているが5号溝によってきられるためその先は定かではない。調査区すぐ西に端気川が南流していることから、かつて流れ込んでいた可能性は高い。1号及び6号溝は並行しているが、新旧関係では、断面図や昨年度の調査結果からも1号溝が先行するものと考えられる。遺物は、1号溝を中心に内耳土器片や陶磁器片が出土した。内耳土器片は15~16世紀の所産と思われる。

A区で最も大規模な5号溝は調査区北西に位置し東西方向に走る。出土遺物の量も最も多い。溝の上層部ではガラス製の小瓶など時代的にはかなり新しいものが多く出土しているが、中層から下層にかけては内耳土器片や土師質皿(カワラケ)が比較的多く見られた。土師質皿は輪轉成型で平底を呈し、焼成は還元焰気味のものと酸化焰のものとある。底径は約5cm~7cm程度。陶磁器類では、灯明具や香炉(瀬戸・美濃系18世紀前)、菊皿(瀬戸・美濃系17世紀)、碗(瀬戸・美濃系「尾呂茶碗」18世紀、唐津系「奥器手」17世紀中~後)等多岐にわたる。さらに完形ではないが天目茶碗(16世紀後)も出土している。また、5号溝には大小の石が大量に投棄されており、後世の開墾等で出た石を捨てた跡ではないかと思われる。のことから、本遺構も中・近世のものと考えられる。

2号溝及び3号溝は調査区外の北側で確認したところ、ほぼ直角に接していることから、土地区画の為の溝ではないかと考えられる。出土遺物もほとんどなく埋土にも軽石などが確認できないため正確な時期については断定できないが、本遺跡南の北関東自動車道本線部分での発掘調査で、中・近世の館跡や井戸、堀や土地区画の溝が検出されていることから、同様な時期と捉えている。

・ B区

B区においてもAs-B軽石の堆積は全く確認できず、僅かにAs-B軽石を含む覆土を取り除き遺構を確認した。土坑2基、井戸1基、大小の溝併せて18条が検出された。出土遺物はA区同様陶磁器片が中心であるが、その他に壢り鉢、内耳土器片、流紋岩の砥石などが出土している。

溝に関しては、21号溝を除き他のものは全て小規模で、溝群を呈している。深さにして50cm程度のものは数条で、大半が20cmから5cm程と浅いものばかりである。調査区内を縦横に走っている。その用途は不明であるが、調査区の土質を見るとあまり水捌けが良くなく、排水用として簡易的に造ったものではないだろうか。21号溝に流れ込むように造られている溝があることもその一例と思われる。21号溝は調査区南端で東西方向に走る。溝西壁で断面を観察すると、溝北側は上部から底部まで擾乱が見られる。出土遺物は少ないが内耳培塿や内耳鍋が出土している。培塿は底部の破片が特に多い。平成11年度に調査済みのB区南に接する場所で同様な内耳培塿が出土していることから、時期的には18世紀中~後期の

ものと思われる。鍋については、完形ではないが底部の形状から15世紀と思われるものも出土している。これらを考慮すると少なくとも15世紀ごろには存在していたと考えられる。上層の遺物を見ると近代になって埋没した可能性が高い。

(参考文献)

- | | | |
|-------------------------|--------|------------------|
| 「前橋市史」第1巻 | (1971) | 前橋市史編さん委員会 |
| 「高崎城遺跡Ⅲ・IV・V」 | (1990) | 高崎市教育委員会 |
| 「白石大御堂遺跡」 | (1991) | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 「地田栗Ⅲ遺跡」 | (1994) | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 「新編高崎市史」資料編3中世I (1996) | | 高崎市市史編さん委員会 |
| 「前橋城三ノ丸遺跡」 | (1996) | 前橋地方・家庭裁判所遺跡調査会 |
| 「年報18」 | (1999) | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 「鶴光路複橋Ⅱ・篠丸高堰Ⅲ遺跡」 (2000) | | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |

Tab.1 慶丸高塚IV遺跡土器・陶磁器観察表

番号	出土位置	器形	大きさ 口径 底面				胎土焼成	色調	残存	器形の特徴・成形・調査状況			備考	Fig.
			口径	底面	内外面	外縁				内耳	外縁	内耳		
1	W-5	内耳焙烙	[36.6]	5.4	細粒良好	褐灰	1/8	口縁り、底面で脚部、内耳は頗る広く下端に弧形に連する。	平底で浅い脚形。					9
2	W-5	灰釉高台皿	11.4	3.5	細粒良好	灰白	完形	外縁、底面が脚部に連する。	高台は低い。高台断面は三角形。底径やや広い。					9
3	W-5	土師質皿	8.2	1.8	中粒良好	灰白	ほぼ完形	内外面とともに底で調整。	底部脚部無切と後脚で。					9
4	W-5	土師質皿	8.4	1.5	粗粒良好	黒褐	完形	細粒成形。内外面ともに底で調整。	断面角切り未調査。					9
5	W-5	打削受け脚付	8.2	5.3	細粒良好	にふい	完形	細粒成形。底の裏面をよく金で施錆。	断面角切り未調査。					9
6	W-5	陶器皿	14.0	4.1	細粒良好	灰	2/3	細粒成形。体側内面。口縁外縁。	削りだし高台。					9
7	W-5	陶器皿	[11.3]	2.0	細粒良好	明褐灰	2/5	細粒成形。全体に脚部。	平底状の高台が頗る行く。					9
8	W-5	土師質皿	9.6	2.9	中粒良好	明褐灰	1/2	細粒成形。内外面ともに底で調整。	底部脚部無切後脚で。					9
9	W-5	土師質皿	7.6	2.2	中粒良好	灰白	1/2	細粒成形。内外面ともに底で調整。	底部脚部無切後脚で。					9
10	W-5	陶器皿?	-	[2.8]	細粒良好	にふい	3/4	細粒成形。内外面に施錆。内	底部が内方向に傾かに内側。脚部脚部無切後脚。					9
11	W-5	陶器皿	[15.8]	2.9	細粒良好	浅黄	1/3	細粒成形。高台脚部なく全て	底付。体側外縁。口縁部外縁。	底付。武程広い。				9
12	W-5	陶器碗	[12.2]	3.9	細粒良好	灰白	1/3	細粒成形。内面底部の目状に施錆。	脚部脚部無切まで脚部。底台底付。	削りだし両台。武程小さい。				9
13	W-5	陶器皿	[12.2]	3.3	細粒良好	灰白	1/3	細粒成形。高台脚部なく全て	脚部脚部無切。削りだし高台。底程小さい。					9
14	W-5	陶器香炉	10.4	7.0	細粒良好	にふい	3/4	細粒成形。丸くによる半周底。底付を削り全て脚部。	脚部押さえて張り付けた足あり。					9
15	W-5	陶器皿	[13.7]	3.6	細粒良好	浅黄	3/4	細粒成形。体側部内面。	口縁部外縁。内外面ともに施錆。					9
16	W-5	菊皿	[14.0]	3.7	中粒良好	灰白	2/3	細粒成形。高台脚部なく全て脚部。	削りだし両台。底程やや広い。					9
17	W-5	墨書き土器	-	-	中粒良好	灰白	底程のみ	細粒成形。	底部内面に墨書きあり。解説不能。					9
18	W-5	天目茶碗	[12.2]	(5.7)	細粒良好	赤黒	脚部1/3	細粒成形。体側脚部内面。口縁部無いS字型。高台脚部を削り全て脚部。					10	
19	W-5	陶器皿	[13.8]	2.8	細粒良好	灰褐	1/3	細粒成形。高台脚部なく全て	削りだし両台。高台脚部高方形。高台広い。					10
20	W-5	磁器蓋	6.6	3.3	細粒良好	灰白	2/3	細粒成形。全体に白釉。		底程小さい高台が付く。				10
21	W-5	軟質陶器握り鉢	-	(13.2)	細粒良好	橙	脚部1/2	底面雨引。底付。脚部、底部全体に即日より。	底部欠損。					10
22	W-5	土師質皿	[10.2]	2.2	粗粒良好	灰白	脚部1/3	細粒成形。内外面ともに底で	脚部角切り後脚で調査。					10
23	W-5	高台碗	8.4	3.2	細粒良好	灰白	1/3	細粒成形。高台脚部なく全てオーリーブ色の施錆。		削りだし高台。底程小さい。				10
24	W-5	陶器碗	-	(2.4)	細粒良好	灰白	2/3	細粒成形。内面施錆。底部中上位に白色の施錆。		削りだし両台。底程小さい。				10
25	W-5	羽釜	[22.5]	(4.2)	細粒良好	黄灰	脚部1/5	鷺南リ。模様で。口縁部は半周底。						10
26	W-5	内耳焙烙	[36.8]	5.7	細粒良好	黄灰	脚部のみ	底面雨引。脚部内面。内耳は頗る広く下端が底部に突出する。	底面で浅い脚形。					10
27	W-5	内耳焙烙	[33.6]	5.4	細粒良好	黑褐	1/10	底面雨引。脚部内面。内耳は頗る広く下端が底部に突出する。		底面で浅い脚形。				10
28	W-5	内耳鍋	[16.0]	(11.1)	細粒良好	黄灰	1/10	底面雨引。脚部。口縁部や外縁。内耳は小さく下端は口縫下部に連する。		底部欠損。				10
29	W-5	内耳鍋	[26.0]	(6.3)	中粒良好	黄黄褐	口縫部 1/10	底面雨引。底で脚部。口縁部や外縁。内耳は頗る広く下端が底部に突出する。		底部欠損。				10
30	W-5	内耳鍋	[24.0]	(10.0)	中粒良好	褐灰	1/10	底面雨引。底で脚部。口縁部や外縁。内耳は頗る広く下端が底部に突出する。		底部欠損。				10
31	W-6	陶器皿	[13.3]	2.7	細粒良好	オリーブ	脚部2/5	細粒成形。底面。脚部中程から内面全体に即日。	削りだし両台。底程やや広い。					10
32	W-6	瓦頭	-	-	中粒良好	灰白	足部のみ	即日。		三重脚付。				10
33	W-21	軟質陶器握り鉢	[38.4]	13.1	細粒良好	暗赤	脚部 1/3	即日。即日。即日。	即日。即日。即日。	即日欠損。				11
34	W-21	土師質皿	11.1	2.4	中粒良好	灰白	1/3	細粒成形。即日が外縁。即日が内縁。即日が内縁。	即日。即日。即日。	即日欠損。				11
35	W-21	内耳鍋	[24.4]	(11.7)	細粒良好	褐灰	1/6	即日。即日。即日。	即日。即日。即日。	即日欠損。				11
36	W-21	土師質皿	9.6	2.8	粗粒良好	にふい	脚部1/3	細粒成形。内面底に即日。	即日。即日。	即日欠損。				11
37	W-21	土師質皿	12.0	2.5	粗粒良好	明褐灰	1/3	細粒成形。即日底に即日。	即日。即日。	即日欠損。				11
38	W-21	内耳焙烙	[36.0]	5.7	中粒良好	暗赤灰	1/10	鷺南リ。脚で脚部。脚部の即日や脚部。内耳は下端が脚部下位に連する。		平底で浅い脚形。				11
39	D-2	陶器高台皿	9.8	2.1	細粒良好	明褐灰	5/6	細粒成形。内面ともに施錆。		複雑な削りだし高台。				11
40	A区表振	火入れ	9.1	4.9	細粒良好	削り-7灰	3/4	細粒成形。口縁部僅かに内縁。底面の一部施錆。		底面平ら。底の目高台。				11
41	B区表振	灯明具	-	(6.8)	細粒良好	灰	1/3	即日内面に即日や即日。即日は即日状の即日あり。即日前面に即日。		底部丸底。底部内面は受け盤状に一段深くなる。				11

注) 表の記載は、以下の基準で行った。

- ① 胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0mm~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名を記載した。
- ② 焼成は、極良、良好、不良の三段階。
- ③ 色調は、土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳(小山・竹原1976)に掲った。
- ④ 大きさの単位はcmであり、現存値を()、復元値を[]で示した。

Tab.2 石製品観察表

番号	出土位置	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ	石材	特徴	備考	Fig.
1	W-5	磁石	4.2	2.9	1.6	29.0g	流紋岩	3面使用		11
2	W-13	磁石	7.2	2.8	2.3	68.5g	流紋岩	3面使用		11
3	W-13	磁石	10.0	3.1	3.2	120.0g	流紋岩	3面使用		12
4	W-18	磁石	8.3	2.6	2.4	70.0g	流紋岩	4面使用		12
5	W-24	磁石	8.3	3.2	3.0	140.0g	流紋岩	4面使用		12
6	W-24	磁石	7.9	4.3	3.6	150.0g	流紋岩	3面使用		12
7	W-24	磁石	6.1	2.4	2.3	40.6g	流紋岩	4面使用		12
8	B区表採	磁石	4.5	3.7	2.5	75.5g	流紋岩	3面使用		12
9	W-5	石臼	—	—	11.1	1.74kg	粗粒安山岩	—	下臼	12
10	W-5	石臼	—	9.2	6.9	640.0g	粗粒安山岩	—	上臼	12

Tab.3 銭貨観察表

番号	出土位置	種別	長径(cm)	短径(cm)	孔(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	銭貨名	残存状況	Fig.
1	W-21	銅銭	4.8	3.2	0.6	0.2	16.2	天保通寶	完形	12

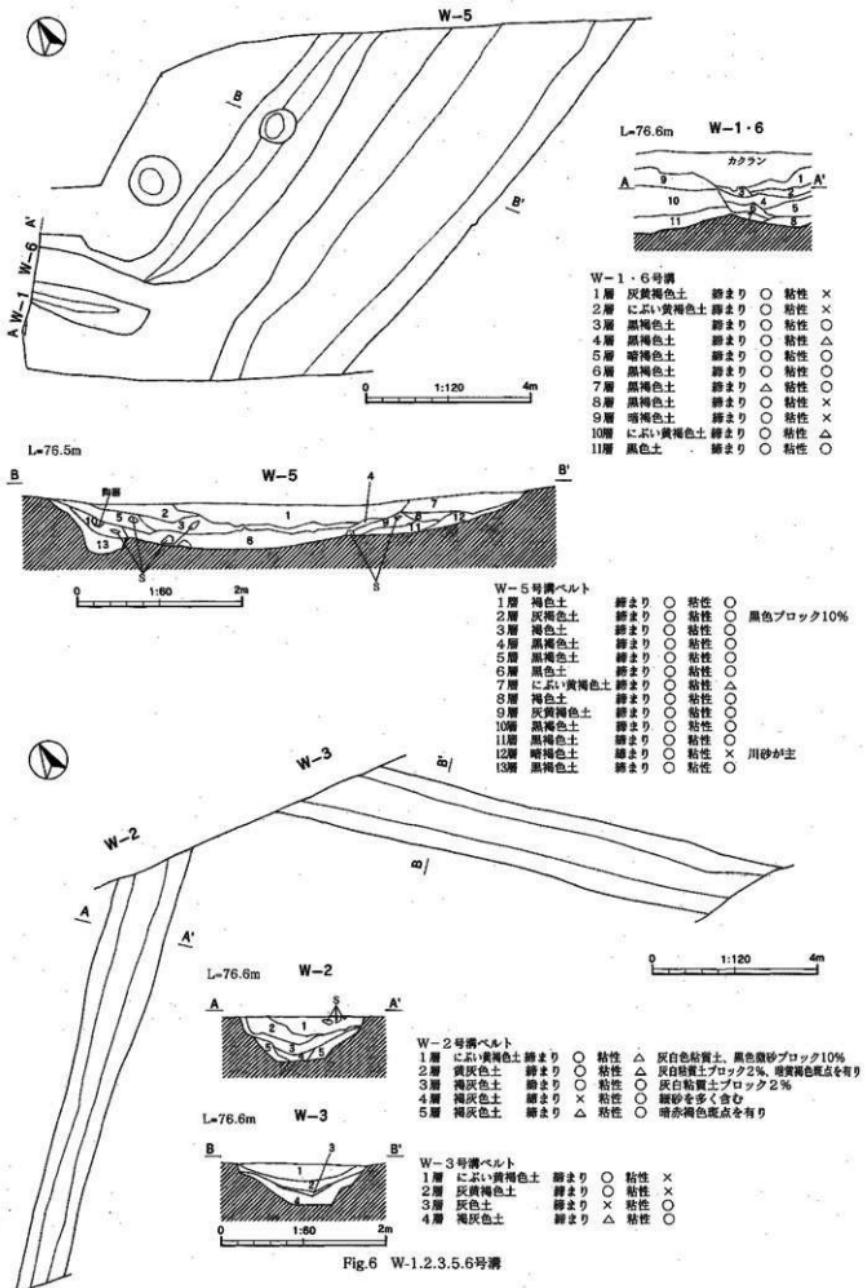


Fig.6 W-1.2.3.5.6号系

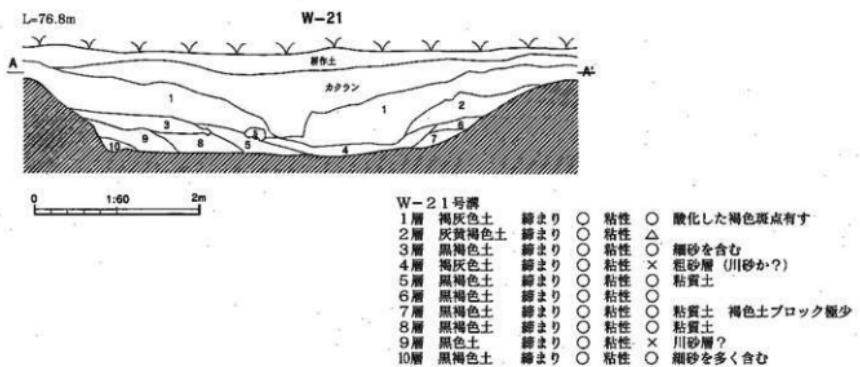
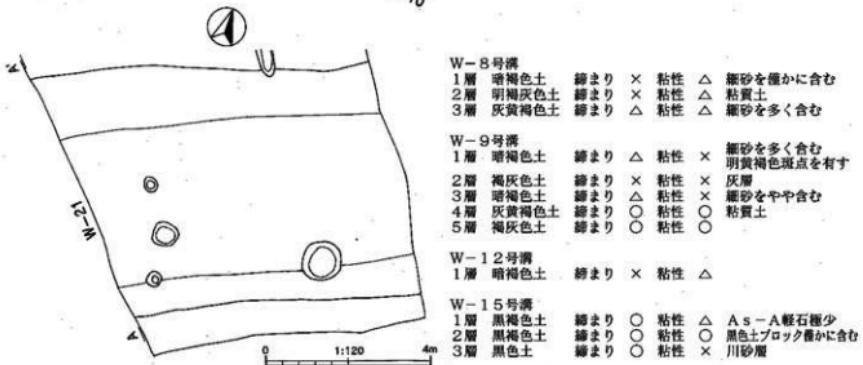
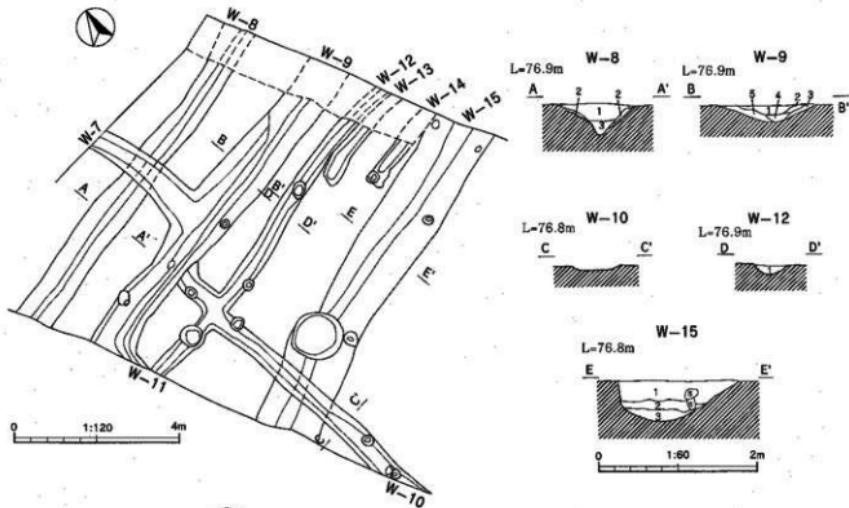


Fig.7 W-7~15. 21号溝

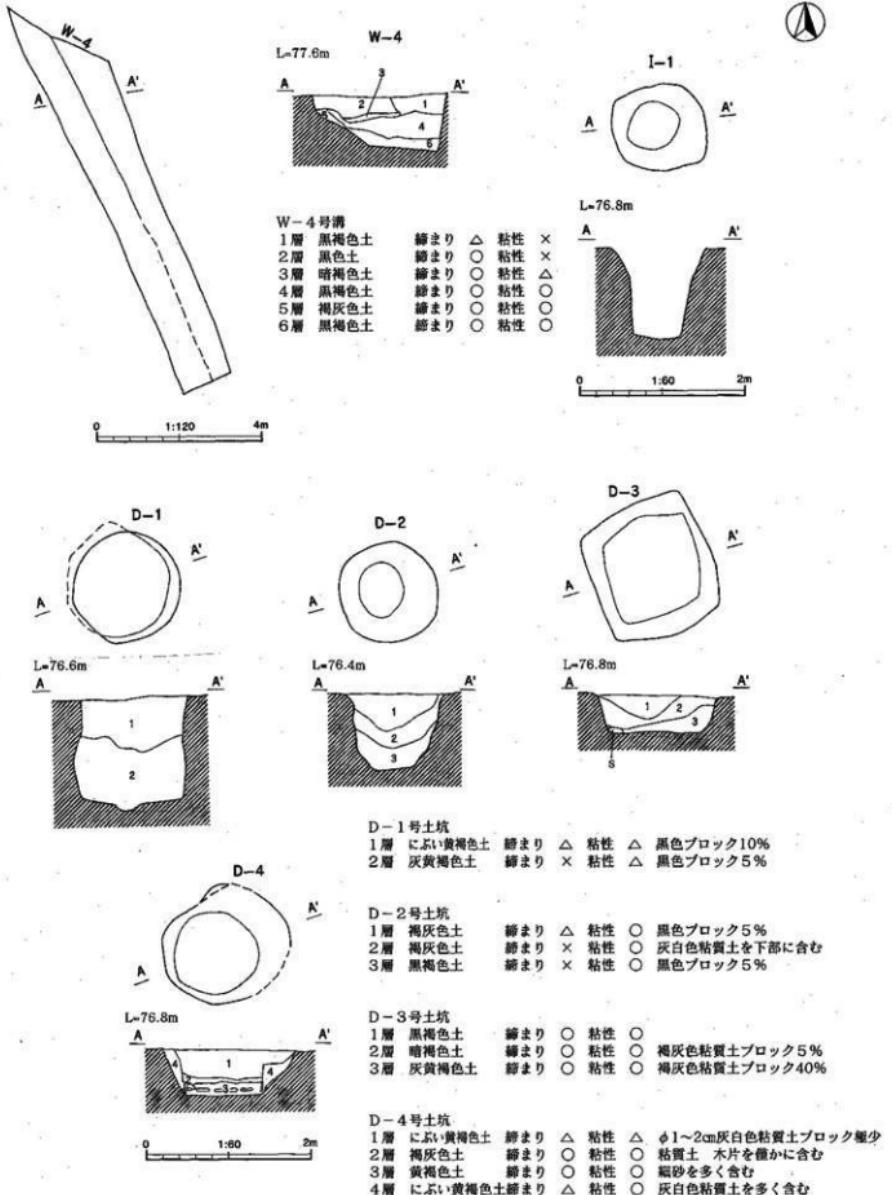


Fig.8 W-4号溝 I-1号井戸 D-1~4号土坑

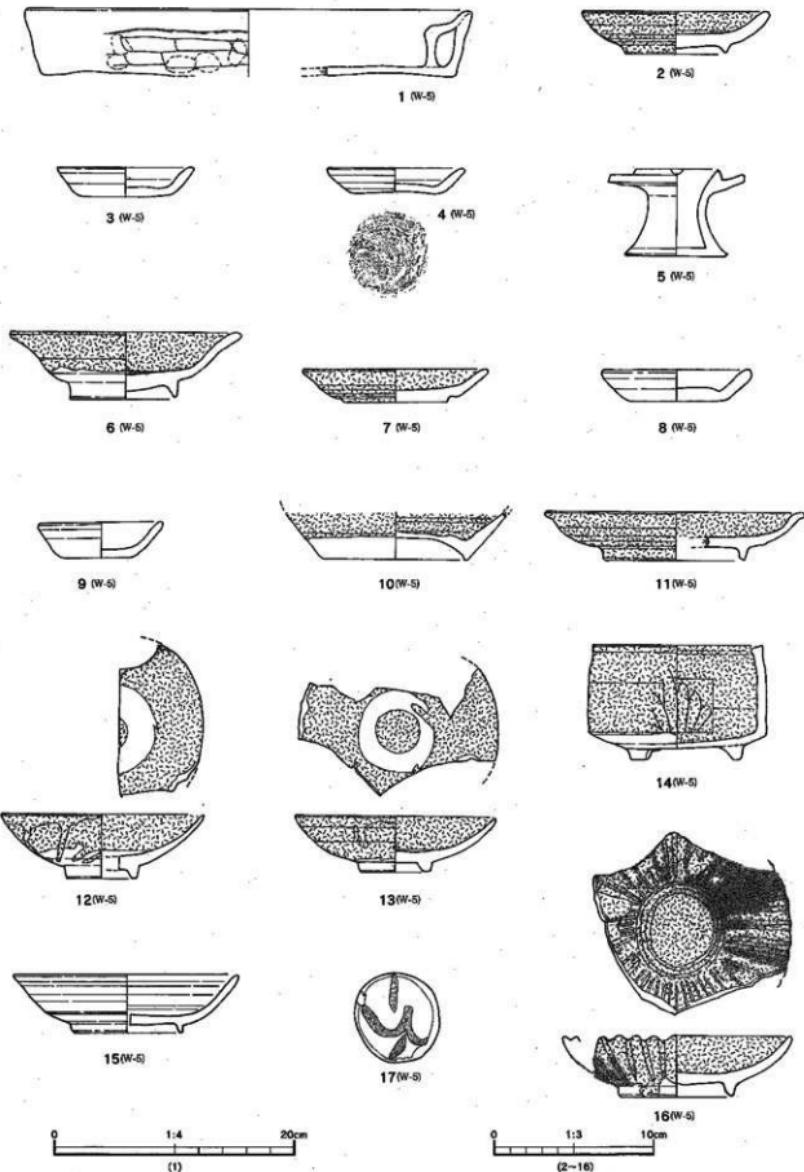


Fig.9 W-5号溝出土遺物

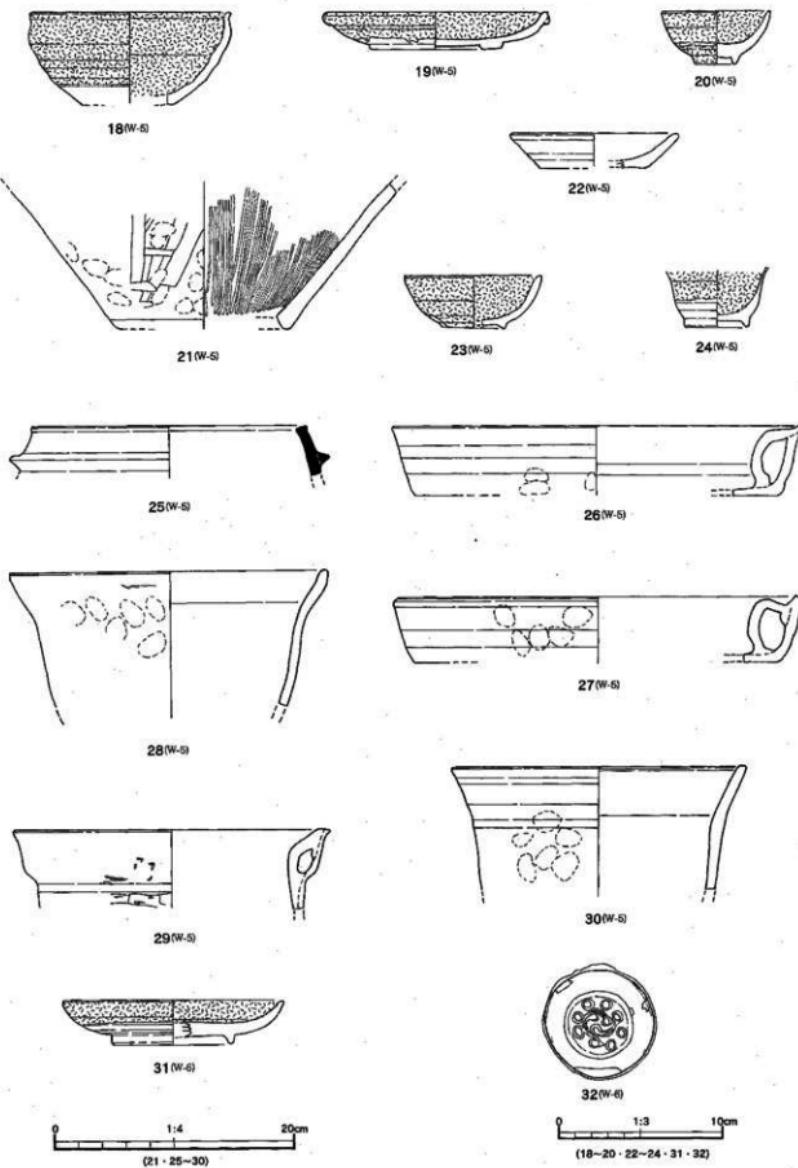
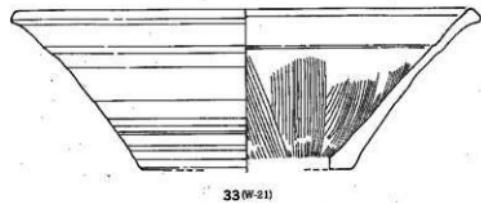
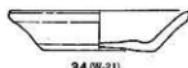


Fig.10 W-5・6号坑出土遺物



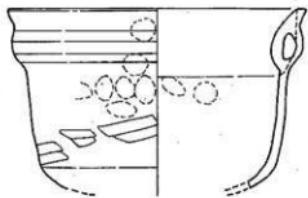
33 (W-21)



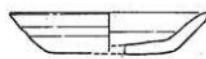
34 (W-21)



36 (W-21)



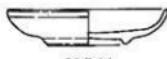
35 (W-21)



37 (W-21)



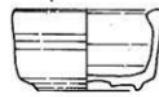
38 (W-21)



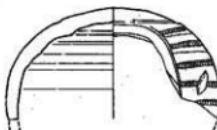
39 (D-21)



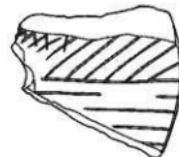
9 (W-5)



40 (A区表层)



41 (B区表层)



10 (W-5)

0 1:3 10cm
(34 - 36 - 37 - 39~41 - 43)

0 1:4 20cm
(33 - 35 - 38 - 42)

Fig.11 W-5・18号溝 D-2号土坑、A区・B区表出土遺物

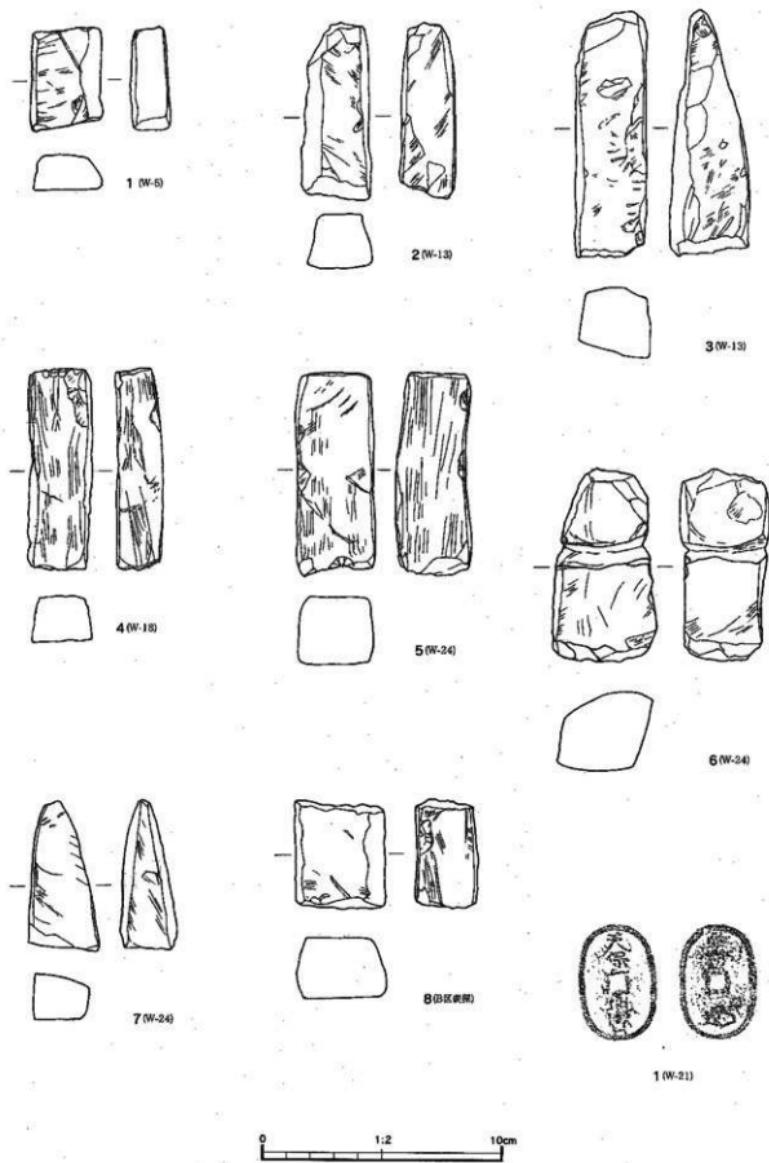


Fig.12 W-5·7·12·17·21号溝B区表探出土遺物



AII区全景（南東より）



W-1・6全景（東より）



W-2全景（南より）



W-3全景（南より）



W-4全景（南より）



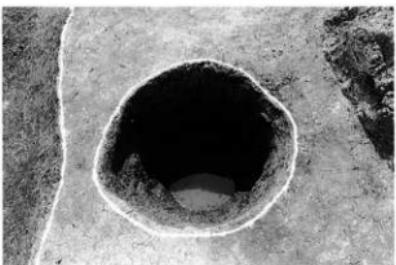
W-5全景（南西より）



W-5全景（北西より）



D-1全景（西より）



D-2全景（北より）



B区全景（南東より）



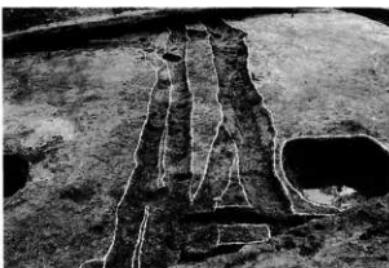
W-7・12全景（北より）



W-8全景（東より）



W-9・10・11・12・13・14全景（東より）



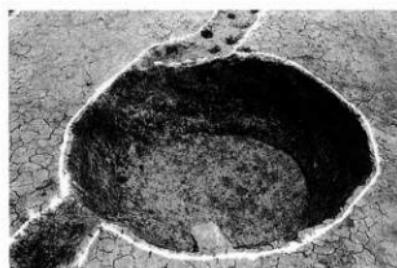
W-16・17・18・19・20・22全景（東より）



W-21全景（東より）



D-3全景（東より）



D-4全景（北より）



I-1全景（東より）



1
(W-5)



2
(W-5)



4
(W-5)



5
(W-5)



6
(W-5)



7
(W-5)



13
(W-5)



14
(W-5)



15
(W-5)



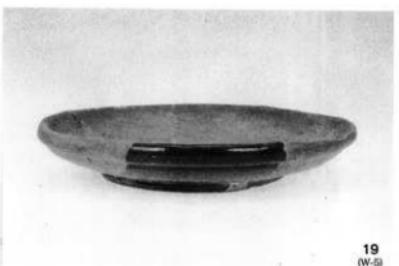
16
(W-5)



17
(W-5)



18
(W-5)



19
(W-5)



21
(W-5)



26
(W-5)



31
(W-5)



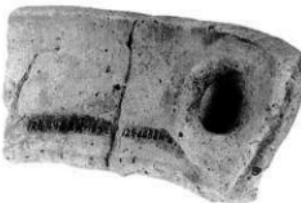
32
(W-6)



35
(W-18)



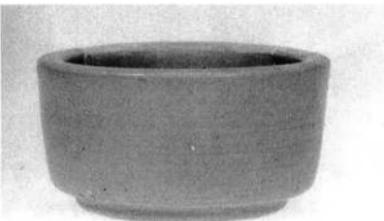
36
(W-18)



38
(W-21)



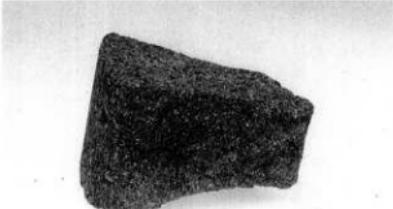
39
(D-2)



40
(A区表探)



41
(B区表探)



10
(W-5)

抄 錄

フリガナ	トクマルタカゼキヨンイセキ
書名	徳丸高塙IV遺跡
調査名	北関東自動車道側道改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
調査者名	小峰 蘭
調査機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
調査機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発行年月日	西暦2001年3月23日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市	町村	遺跡番号	北緯	東経		
トクマルタカゼキヨンイセキ 徳丸高塙IV遺跡	マハラシタカゼキ 前橋市徳丸町	10201	12G44	36° 19' 53"	139° 06' 24"	20000516 20000922	295m ²	北関東自動車道 側道改修工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
徳丸高塙IV遺跡	水田跡 その他	中・近世	井戸1基 土坑4基 溝24条	中・近世の土器片及び陶磁器片
特記事項				

徳丸高塙 IV 遺跡

平成13年3月20日 印刷
平成13年3月23日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 前橋市三保町二丁目10-2
 TEL 027-231-9531
 印刷 前橋市小神明町575-1
 上越印刷工業株式会社
 TEL 027-234-2212(代)